

- ◇開催日時 2018年9月20日(木) 19時00分～22時30分
- ◇会場 奈良教育大学次世代教員養成センター2号館
- ◇参加者 圓山(飛鳥小)、河野(附属小)、新宮(平城小)、後藤田(成蹊大)、中澤敦(きんき環境館)、梶原(平城西小)、高良(筒井小)、近藤・島(郡山西)、蔵前(真美ヶ丘)青山(京エコロジー)、堀口(奈良学園小)、西口(奈良市教委)、  
糸・西田・片山・菱谷(奈良教育大学学生)、北村・中澤(奈良教育大学) 19名

◇内容

1. ミニコミュニケーション
2. ESD学習指導案の相互検討会

(1) これからの食料生産と

わたしたち(新宮先生)

- ①農業の多面的機能をしっかり押さえて、農業の大切さについての理解を十分に。
- ②耕作放棄地に着目させたい
- ③日本の稲作をまず学習した上で展開してはどうか。
- ④農業を活性化することで環境が保護される。消費行動を変えることで農業を支援できる。
- ⑤地産地消の範囲について  
輸入物よりも国産品、国産品よりも県内産、県内産よりも地域(校区)産  
その理由をしっかりとおさえる(輸送エネルギー・CO<sub>2</sub>、地域経済の活性化)
- ⑥耕作放棄地の増加とともに、農家数の減少もおさえる
- ⑦日本の農業をシステムとして捉える学習(社会科)がまず必要。そこをとばして地産地消に持っていくと社会科として成立しない。まず、教科書を用いて、日本の稲作を学習し、システムとして行われている稲作を学ぶ。その中で、農業の多面的機能や食料自給率、農家数の減少などの日本全体の課題についても学習しておき、「平城小校区ではどうだろうか」と展開していくとよいのではないかな。
- ⑧授業展開について  
教科書で稲作(日本の農業を俯瞰的に捉える)→平城小校区の現状(農家数の減少・耕作放棄地)  
→奈良市の現状(農家数・耕作放棄地)→日本の農業の課題を具体的に認識(自給率・農家数・耕作放棄地)  
→フードアクション(日本の農業を消費を通して活性化させる1つの方法として)  
→校区の農業を活性化させる方法として「地産地消」(このときに地産地消の意義をおさえる)  
→これからの消費行動を考え、実行する

(2) 国際連合のはたらきと日本人の役割(島)6年生社会科

☆ESD的な社会科をしたい

世界の課題から教育にフォーカスしていく

教育:濱田さん・ガーナを招へい

その他の課題解決にむけた国連の働きについては、個々の調べ学習で



オープンエンド（自分たちにできること）

①国際協力の意義

個人的成長 濱田さん（JICA）－ODA（国連ではない） 濱田さんの成長・喜び・やりがい  
国として 平和主義（日本の平和を維持するうえの布石）、  
SDGs への貢献（貧困撲滅はエネルギー問題、気候変動の緩和につながる）

②ゴールとしての子どもの姿

自分に何ができるかではなく、どんな大人になりたいかの方がいいのでは

③国際協力という大きな単元の中に国連の働きがあるので、それも合わせて取り扱う。

④教育のフォーカスするしかけ

ノーベル平和賞のマララさんの演説を参照

(3) 日本の工業（河野先生）

・ねじ工場に焦点化

・海外で人気の日本車（中古車・日本の文字を消さずに使っている）

丈夫で安全な自動車、質の高さ、長持ち それを支えるねじ工場

・SDGs との関連

やりがいのある仕事：SDGs の目標 8（はたらきがい）

質の高い工業製品：目標 9（イノベーション）

燃費のいい自動車：目標 7（エネルギー）

長持ちする車をつくる、修理して長く使う：目標 12（生産と消費）

①車の長期使用の是非は問わないが、修理して長く使うこともよい、ということに気づかせたい

②学びの中心は

自動車産業を切り口に日本の工業への理解を深める

ねじ工場だけを学ぶのではなく、自動車産業の一部として学ぶ。さらに関連工場や関連工場が海外にある場合など、多様な工業システムにふれる。このねじ工場は、関連工場というよりも、協力工場？。そういうつながり方もあること（多様性）に気づかせる。

働く人の思いにふれることで、修理して長く使うことへの気づきにもなる

学びの中心については整理の必要がある

③ローテクとハイテクを結ぶ

ねじ工場の方針

（新しい自動車等の製品開発のためには、少数でも受注生産する：ハイテクを支えるローテク魂）

(4) ダンボールコンポストから考えよう（圓山先生）

☆ダンボールコンポストによる生ごみのたい肥可 — 奈良市環境リサイクル課との連携

☆学級だけではコンポスト利用が困難なので、学校全体の取組にしたい（パートナーシップの意義）

・食品ロスの学習より、食べ残しのない学級を目指しており、食べ残しがでないという実態。

・アレルギー体質のため、関わるできない児童がいる。

・食べ残しのたい肥化ではなく、給食室で出る野菜くずならできるのでは。

→給食委員会や環境委員会にもちかける

→児童代表委員会に提案する

学級にも実行部隊を組織

かきまぜる、できたたい肥を畑に活用する

学級にも広報部隊を組織

ダンボールコンポスト自体はいいものなので、ポスター化。

低学年には紙芝居で

☆自分のクラスでは実行は難しいがパートナーシップでやろう

①ゲストティーチャーの話

落ち葉利用の話もあった。ただし時間がかかる。

②連携をテーマにしているのは目の付け所がいい（目標17）

③誰にとっていいのか（地球環境にとっても意義あるダンボールコンポスト）

ダンボールコンポスト自体のよさをしっかりおさえる

生ごみが減ることで、食品廃棄・燃焼のためのエネルギーの無駄やCO<sub>2</sub>排出を低減できる。

資源の循環（食物連鎖）について学ぶ教材となる。

④次年度も学校として継続できるのか

3か月生ごみを入れる → 3週間の熟成期間（水を入れてかきまぜる）→たい肥として使用可  
今年もらったダンボールコンポストは今年で終わり。次年度も配布されるかどうかは未定

### 3. 全国各地のESD学習指導案検討会（指導案を持参必須）

（1）東京：10月7（全日）・8日（AM）

（2）仙台：10月27日（PM）

（3）長崎：11月18日（AM）

### 4. 先進地視察

（1）世界遺産学習全国サミット in 宗像：11月17日

（2）ESD活動フォーラム：12月1日

（3）ユネスコスクール全国大会（横浜）：12月8日

次回は10月17日（水）19時～

会場：次世代教員養成センター2号館

※検討したいESD学習指導案・授業構想を持参してください。（30部印刷）

